

追悼－私の中の李登輝先生

渡辺 利夫

拓殖大学学事顧問
日本李登輝友の会会長

李登輝先生と初めてお目にかかりましたのは、

平成一九年(2007)三月末のことでした。同年六月に李先生は三度めの訪日を果たされるのですが、三月の時点ではまだ公式には何も決定されておりませんでした。訪日が実現することになれば、台湾に縁の深い拓殖大学にもぜひ立ち寄ってほしいと私はかねて考えておりました。

同じ年の一月、旧知の故・中嶋嶺雄さんから、李先生が旧アジア・オーブン・フォーラムの招きで訪日すると決意されており、その際には拓殖大学を訪れてもいいという趣旨の伝言を頂き、心躍る気分にさせられました。ちなみに拓殖大學は、その草創期に李先生が敬愛する後藤新平や新渡戸稻造が活躍した大学です。

私は当時、拓殖大学の学長職にあつたのですが、事前に直接、李先生にご挨拶をしておかなければ礼を欠くと考え台湾に赴きました。大いなる人物との初めての面談でしたが、不思議に緊張することはありませんでした。対する者を

暖かく包み込む悠揚な雰囲気、あの時間を私は

決して忘ることはできません。「必ず拓殖大學には参ります」と李先生が切り出され、残りの話のほとんどは日本の政治状況やご自身の青春時代のことなどでした。

六月七日、李先生は午前に兄上の眠る靖國神社を参拝された後、一二時半頃、大学にお着きになられました。理事長以下の大学幹部は全員緊張の面持ちでしたが、話が始まるやにわかに部屋の雰囲気が和らいでいったことをよく覚えています。

このことをきっかけとして、その後も李先生には何度もお目にかかることがありますが、先生はいつも私の顔を見るや、「渡辺学長、渡辺学長」と近寄ってこられました。学長を辞した後も、「渡辺学長」でした。

李先生の訃報に接し、改めて深くそう感じざるを得ないのは、李先生のあの雅量はきっと李先生の政治的人生がつくりだしたものにちがい

ない、という思いです。

台湾は分断社会です。深層部に「省籍矛盾」を抱えています。国共内戦に敗れた国民党政府が台湾を接收、敗走する軍人・軍属など多くの大陸出身者が台湾に流入してきました。彼らは「外省人」と呼ばれ、以前から台湾に住まう「本省人」とは異質の社会集団を形成しました。新たな支配者となつた国民党の専制には凄まじいものがありました。無権利状態のままにおかれられた本省人と外省人との軋轢と衝突が「二・二八事件」です。事件により台湾の分断は決定的になってしまったのです。台湾の社会統合をいかに図るか、李先生の胸中をつねに懊惱させていたテーマがこれだ、と私は考えます。

外省人の権力の懷に深く入り込み、そこから台湾社会の統合を実現するより他に道はないと決断して国民党入党。往時の権力者・蔣経国氏にその実力を認められ、蔣氏の死後に党主席となり総統にもなつて台湾の民主化を成し遂げ



故・李登輝先生

台湾元總統。1923年(大正12年)、台北州淡水生まれ。京都帝国大学在席中学徒出陣、陸軍少尉として名古屋で終戦を迎える。台湾へ帰還後、台湾大学に編入学。米国へ留学し、博士号取得(農業経済学)。

台湾の民主化は、同時に「台湾の台灣化」の動きであります。中台は「一つの中国」における内部関係ではなく、「国家と国家、少なくとも特殊な国と国の関係」だという「二国論」の正統性を鮮やかに打ち出したのも李先生です。その時の映像が私のDVDの中にいまも残つております。二〇数年も前のその光景を見るたびに、私の涙腺もおのずと緩んできます。〔省籍矛盾〕解消の大画期でした。

李登輝先生、これが李先生です。あの包容力なくして台湾社会の統合はなかつたと思います。

決定的だったのは、一九九五年二月二八日、台北新公園で執り行われた「二・二八事件記念碑落成式」において李先生自身が、事件の犠牲者と遺族に対して公式の謝罪を表明したことです。その時の映像が私のDVDの中にいまも残つております。二〇数年も前のその光景を見るたびに、私の涙腺もおのずと緩んできます。

〔省籍矛盾〕解消の大画期でした。静かにお休みくださいませ。

台湾の民主化は、同時に「台湾の台灣化」の動きであります。中台は「一つの中国」における内部関係ではなく、「国家と国家、少なくとも特殊な国と国の関係」だという「二国論」の正統性を鮮やかに打ち出したのも李先生です。

李登輝先生、長い間、ほんとうにおつかれさまでした。静かにお休みくださいませ。

「私は22歳まで日本人だった」ことを誇りとされ、「私は私ではない私」「誠実自然」など哲人政治家として日本人からも尊敬を集め、2002年には日本李登輝友の会が結成された。總統退任以後、日本へ9回訪問。とくに2007年には念願だった「奥の細道」を巡り、兄が祀られている靖國神社に参拝。2015年には、国会議員超党派有志による要請を受け、国会議員会館において講演した。逝去に際し、日本の超党派議員連盟「日華議員懇談会」(会長・古屋圭司衆院議員)による弔問団(团长・森喜朗元首相)が8月9日、台湾を訪問、祭壇が設けられた迎賓館「台北賓館」を訪れ、供花した。